

第1回平野区地域福祉計画策定委員会及びパブリックコメントにおけるご意見と修正などの考え方

No.	項目	ご意見の概要	修正内容
1		<ul style="list-style-type: none"> <li>多くの窓口で事業実施されており、住民の方への周知が必要であり、医療現場も内科・歯科・薬局があり、これらに周知する事により、住民の方が気軽に相談できるようになると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3章（P21）において、医療機関や保健分野との連携の大切さについて明記させていただきました。今回の地域保健福祉計画では、令和2年に発生した新型コロナウイルスへの対応の中で、外出自粛に伴うフレイル状態の進行等、日常生活の中で地域福祉を進めていくためには保健・医療との連携が必要不可欠であるとの考えから名称も変更したところです。（参照P4）</li> </ul>
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪は災害が来ないと言う認識があり危機感が欠如している。また、実際に被災した際に、障がい者支援の対応が分からないので、防災における障がい者支援の取組や周知をして欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2章（P15）においても、南海トラフ地震に対する取組の必要性を記載しています。具体的な取組につきましては、安全で安心な平野区をめざして（2）防災・防犯の取組にも障がいのある人や配慮の必要な人への支援について、日頃からの見守りの重要性・共助の重要性について記載しています。引き続き、区役所の防災担当・地域福祉担当、各関係機関との連携を強めながら、周知していきます。</li> </ul>
3		<ul style="list-style-type: none"> <li>第2期の概要版が非常にわかりやすかったので、こういったものを周知して欲しい。</li> <li>高齢の方にも、診療・検査医療機関やコロナワクチンだけとかを分かるような事を盛り込んで欲しい。</li> <li>保健分野で医療と障がい者とのつながりを含めて、色々な分野とのつながりについて盛り込んで欲しい。</li> <li>新型コロナウイルス対策は計画期間の6年間でなくなる可能性はあるが、感染症はこの先も続くので、これらも盛り込んで欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2回開催予定の策定委員会からの意見と、パブリックコメント等からの意見を反映し、第3期計画を策定することとしています。第3期計画の策定後に、区民のみなさまをはじめ、平野区に関わる様々な人が第3期計画についてご理解いただけるよう「概要版」の作成を予定しています。（P4）</li> <li>医師会・歯科医師会・薬剤師会との連携を強化していきます。</li> <li>平野区に関わる全ての人がつながり、支えあえる地域共生社会の実現に向けて、様々な分野とのつながりの重要性については、P17に記載しています。</li> <li>新型コロナウイルスの感染症以外の蔓延は今後想定されることとのご意見もあり、P31に記載しています。</li> </ul>

No.	項目	ご意見の概要	修正内容
4		<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に保健・医療と福祉とのつながりをもう少し分かりやすく明記が必要で、コロナはきっかけでこれから先新たな感染症等の対応をどのように考えていくか検討をお願いしたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この策定委員会をきっかけに、保健・医療に携わる、医師会・歯科医師会・薬剤師会と区役所・福祉支援関係機関との連携を強化していきます。具体的には、定期的な情報交換・意見交換の場を作る等、顔の見える関係づくりのため、「平野区在宅医療ケアネットワーク委員会」を定期的開催します。</li> </ul>
5		<ul style="list-style-type: none"> <li>・共助と互助が一緒になっており、国の地域包括ケアシステムの表現と異なっているが、これが平野区独自の考え方なら別に構わないが、地域包括ケアシステムと合わせるなら、合わせた方がいいのでは。</li> <li>・8050問題や9060問題も多いので、計画に盛り込んでみては。</li> <li>・在宅医療ネットワークについて、この3年間開催されていない。計画に入れ込むなら何らかの方法で会議を開催すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平野区の地域福祉を推進するイメージとしてP2の図を第2期計画から掲載しています。地域福祉の推進については、高齢者福祉だけでなく、障がい者福祉、児童福祉等、様々な分野があることから、この図のとおり平野区の独自の取組として推進していきます。</li> <li>・記載について検討していきます。</li> <li>・コロナ禍もあり、会議の開催を見送ってきましたが、近日中に開催することとしています。</li> </ul>
6		<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門家機関が実態と支援を連動させるためには、ある程度計画のなかで人口構造も含めた社会構造の変化に伴う新たな課題に対応していく必要があり、そのような観点から8050の課題を取り上げるのも必要だが、ピンポイントでこの課題では無く、計画は広く捉えてどう表記するかということは検討が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3章(P17)でも記載しているとおり、計画を広く捉えて具体的な取組を推進していきます。</li> </ul>
7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の医療救護体制の検討について、医師会としても災害時の緊急対応できるようにマスク等備蓄をしたり、災害時の緊急連絡網を作成した。行政と連携を取っていければと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域で実施していただいている防災訓練や避難所開設訓練に対して区役所や消防署が協働しています。医師会、歯科医師会、薬剤師会はもとより、訪問看護ステーションとも連携体制の構築を検討していきます。</li> </ul>

No.	項目	ご意見の概要	修正内容
8		<ul style="list-style-type: none"> <li>近年言われているオーラルフレイルや口腔ケアを医科歯科で連携している。また、今年地域包括支援センターと連携し認知症予防の啓発DVDを歯科医師会で作成した。日常生活の中で口腔ケアはすごく大事なので、歯科の面から協力させていただきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3章(P21)において、口腔機能の維持に重要性については記載しています。引き続き、歯科医師会と連携していきます。また、区民に口腔ケアの重要性を広く周知していきます。</li> </ul>
9		<ul style="list-style-type: none"> <li>地域で孤独死したケースがあったが、親族等の連絡先が分からないケースがあり、そのようなケースの際に連絡先を把握できる方法を教えて欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>孤立死(孤独死)は、各地域で行われているふれあい喫茶や高齢者食事サービス等の地域福祉活動を通じて、地域のボランティアとの関りを住民のみなさんに持ってもらうことで、完全ではありませんが防ぐ効果が期待できると考えています。対象となる世帯の緊急連絡先の把握については、個人情報保護の観点から本人から同意して取得する方法以外にはありません。引き続き、平野区見守り相談室のCSWによる訪問や民生委員、関係機関との連携により、孤立死(孤独死)が発生しない、誰もが安心して暮らせ地域づくりを推進します。(P20)</li> </ul>
10		<ul style="list-style-type: none"> <li>孤独死について、当事者(孤独死予備群)の方と周囲の住民の方と一緒に考える機会が必要。それを後押しするのは専門職であり、住民の方と専門職が協働することにより、孤独死に関して予防的な対策が立てられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いただいたご意見を受けて、小地域単位で地域住民やボランティアをはじめ、区役所や区社協、専門職等が地域福祉について考える機会が必要と感じています。特に、平成27年度に作成した「福祉のまちづくり」(P4)をベースに、現状の地域福祉について考える機会を区社協と連携して創出していきます。</li> </ul>
11		<ul style="list-style-type: none"> <li>災害について、障がいの方を含めて、実際にどうするのか。実行できるための計画なのか。実際に災害が起こった時に計画だけではどうにもならない。あくまで計画なのか、現実をめざしてやるのか。計画は必要だが具体的なものを作ってください、本当に意味のある計画を策定して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3期計画は、住民のみなさんが住んでいる地域でつながり、支えあいながら、くらしやすいまちづくりをめざすための方法や考え方をまとめているものです。第3期計画では「防災」の視点を含めて策定しています。具体的な取組には、障がいや介護等により災害時、避難に配慮の必要な人への具体的な計画(個別避難計画)を順次策定していきます。(P24)</li> </ul>

No.	項目	ご意見の概要	修正内容
12	委	<ul style="list-style-type: none"> <li>「あいさつ」「声かけ」が昔と比べるとかなり少なくなった。平野区は人口も多いし、具体的に平野区にあった計画を策定して欲しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2章(P14)のつながりの例に「日頃から隣近所の人にあいさつをする」を記載しています。</li> </ul>
13	委	<ul style="list-style-type: none"> <li>普段のつながりから個別避難計画を策定していくということが一番大事。</li> <li>加美連合町会では、要援護者名簿を基に気になる世帯に声かけ活動を始める。このような活動を各連合町会で実施したら、個別避難計画の策定もしやすくなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>要援護者名簿を活用しながら、民生委員、地域の担い手、専門職、見守り相談室と連携して見守り訪問活動等を実施し、住民のみなさん同士のつながりづくりを進めていきます。(P20)</li> <li>徐々にではありますが、各地域で要援護者名簿を活用した見守り訪問活動が進められています。個別避難計画の策定も視野に、引き続き、区役所や区社協、専門職と連携して取り組んでいきます。</li> </ul>
14	委	<ul style="list-style-type: none"> <li>平野区みんな食堂ネットワークでは、現状貧困家庭のこどもは少ないが、孤食の子どもが多く、また、ママ友とそのこどもたちと、多種の家庭のこどもが、居場所として利用されていることがわかる表現をしていただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【P36 こども食堂の用語説明に追記】 最近ではこどもに限定せず、<u>多世代や保護者同士</u>が集う場所として実施したり・・・</li> </ul>
15	委	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3期計画の取組成果の管理をどのような時期に行われるのか？今回は6年の計画で3年の中間見直しとのことですが、3年まで行われないのか、ある程度の期間で定期的に行われるのか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度から第3期計画を推進していきます。令和7年度中に中間の振り返り作業を行う予定です。その上で、第3期計画期間中の令和10年度中に各事業担当者から取組の進捗を把握し計画の振り返りを行うとともに、第4期計画に改定作業を行います。</li> </ul>
16	委	<ul style="list-style-type: none"> <li>「高齢者の生きがいづくりや子育て世代の集える場所等、地域の資源である学校施設や地域集会施設等、身近な場所で誰もが集える居場所づくりの支援を行います。」(P14)で、施設系サービスや通所系サービスの事業所も入れてみても良いのではないかと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援体制整備事業で新たな地域資源の発掘とニーズの把握に取り組んでいます。</li> <li>【P14&lt;取組の方向性に追記&gt;】 ・・・<u>地域の集会施設、高齢者施設等</u>、身近な・・・</li> </ul>

No.	項目	ご意見の概要	修正内容
17	㊦	<ul style="list-style-type: none"> <li>平野区在宅医療ケアネットワーク委員会が、コロナ禍のため平野区として開催が困難であったと思う。現在も感染者が増えてきていることから開催が難しいと思われるが、状況により開催頻度を減らす、参加人員を減らす等の対応をしてはどうか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>No. 4 の回答と重複になります。ご意見のとおり会議については、感染症対策へ配慮しながら、開催します。</li> </ul>

No.	項目	ご意見の概要	修正内容
18	第3章（P19） 1（2）㉔ ㊦	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャラバンメイトの取組について、新しい学習指導要領(中学校)には、高齢者との関わりに関する内容が記載されている。平野区の中中学校(11校)で、「認知症サポーター養成講座」を実施することにしてはどうか。教科(家庭科・社会科・道徳科等)と関連させることにより、学びがさらに深まる。家庭科は授業時数が少ないため、養成講座での体験は授業がやりやすくなる。また、地域の担い手づくり、防災にも役立つと思うのでご検討してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャラバンメイトの取組は、地域の高齢者施設や大学、中学校でも実施しています。また、事務局である区社協では、公開講座を行う等、取組を進めています。ただ、新型コロナウイルス感染症の影響により、中止や延期があるため、令和4年度では12回(うち、中学校への実施は1校)実施しています。いただいたご意見を受けて、引き続き区社協と連携して進めていきます。</li> </ul>
19	第3章（P25～） ㊦	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な数字での目標記載が少なく感じる。</li> <li>保育士の人数が少ないがために起きた悲しい事件が多い。親が働くためにも、また子どもが安全に園での生活を送れるように、保育園の保育士の増員について検討してほしい。大阪市での対応が遅れているなら、大阪市で一番人口の多い平野区が、率先して保育士増員を行い、大阪市を牽引してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3期計画の策定にあたっては、第2期計画と異なり目標数値を設定していません。各具体的取組や基本目標については、中間振り返り等で進捗管理を行い、必要に応じて改定を行います。</li> <li>保育施設の運営状況については、各保育園の実態を把握する必要がありますが、現在平野区では待機児童はいない状況です。いただいたご意見については、所管である子ども青少年局に伝えさせていただきます。</li> </ul>

No.	項目	ご意見の概要	修正内容
20	第3章（P23） 2（3）  ㊦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域生活を送るうえで、働く要素は欠かすことができない。障がいのある方の働くことについての記載が見られない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【P23（3）に追記】 ③就労をめざす障がいのある人が、就労支援等の障がい福祉サービス利用にスムーズにつながるよう、また、地域就業支援のネットワークがより充実するよう関係機関と連携して取り組んでいきます。</li> </ul>
21	全体について  ㊦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画（案）の中に課題と今後の取組の方向性について記載があったが、障がいのある当事者の家族としても、福祉に関わる人の熱意と行動が背景にあり心強い。なかなか相談できず、一人で悩んでいる人もいる。区役所や、地域の人、障がい者基幹相談センター、エルム大阪、病院の医師や看護師、学校の教員、同じ悩みを持つ保護者の会の人、ケースワーカー、グループホーム、訪問看護、移動支援の事業所の人等の支え、国や府、大阪市のきめ細かい支援があり、今があると思っている。辛かった生活から、少しずつ変わり、明るい未来も想像できるようになり福祉の力は素晴らしいと思う。社会には困っている人に心を傾け、寄り添う人がおり心から感謝する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第3期計画の理念である「すべての人と人とがつながり、支えあうまち平野」をめざして、区民のみなさんに周知しながら様々な取組を進めていきます。</li> </ul>
22	第2章（P13）  ㊦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「住み慣れた地域で暮らし続けていけることが大切」とあるが、そのために介護保険法や障害者総合支援法があると思う。そのサービスを受けようとして申請しても、認定に時間がかかりすぎており、必要な時にサービスを受けることができない状況ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険サービスや障がい福祉サービスの利用については、介護度や区分、支給量の審査が必要となり、医師からの意見書を求めたり訪問等による心身の状況調査、専門家による認定審査等、区分の決定には時間を要する仕組みであることを区として課題認識しています。いただいたご意見については、所管である福祉局に伝えさせていただきます。</li> </ul>

No.	項目	ご意見の概要	修正内容
23	第3章（P23） 2（3）① ㊦	地域活動協議会の活動があっても障がいのある当事者へ声をかけてもらえない。行事がある時には参加できるように働きかけてもらいたい	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地域活動協議会として取り組んでいただく活動分野の1つに「福祉に関する分野」があります。一方で、地域の担い手からも「地域の中に障がいのある人がいることは理解しているが、どのように接して良いか分からない」とのご意見もあります。地域活動の担い手を含めて、障がいのある人もない人も各事業に参加できるよう、各地域活動協議会とまちづくりセンター・区役所・区社協が連携して取り組んでいきます。</li> </ul>
24	窓口のこと ㊦	<ul style="list-style-type: none"> <li>区役所地域福祉担当へ電話しても、すぐに来てくれない。また、障がい担当の職員の仕事が多いと思う。窓口で用事で行った時も、ていねいに説明してくれるが、他の用事で待つ人よりも時間がかかっていた。分担のことは分からないが、そういう状況では、適切なサービスの対応ができていないと思うので、職員の体制を整備すべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>区役所として、来庁者の待ち時間の減少の取組を以前から進めていますが、職員の数に限りがあり、また、対応内容についても多岐にわたり、制度によっては多くの時間を要する内容もあります。引き続き、窓口サービスの向上に努めていきます。</li> </ul>
25	第3章（P30） （2） ㊦	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域コミュニティが必要なのはあたり前のことであり、毎年のもや台風等の気象状況を思えば、重要度は増しているのではないか。町会への加入世帯も減っていて、その状況は前から続いているのに、区役所からはチラシを配っているとの弁だけで、具体的な提案もない。このような時代であるからこそ、町会への加入をもっと進めるべきで、区役所ももっとプッシュが必要ではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>近く起こるとされている南海トラフ地震への備えだけでなく、台風等の風水害の備えは必須であり、様々な広報を活用して「自助」の重要性とともに、地域と協働した防災訓練等の「共助」の取組を進めています。また、区役所として共助を大きく担う町会・自治会の加入率の低下は地域コミュニティの維持にとって喫緊の課題と認識しています。町会・自治会への加入促進について、まちづくりセンター・区役所が連携して進めていきます。</li> </ul>
26	第3章（P31） （3） ㊦	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元のボランティアがなかなか広がらない。そもそも活動の機会も随分以前からは減少しており、その中で新たにボランティアを見つけることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの地域福祉活動の担い手であるボランティアの高齢化が課題と聞きいています。ボランティア活動のやりがいや地域福祉活動の意義について様々な周知に取り組んでいく必要があり、ボランティア市民活動センターを開設している区社協と連携していきます。</li> </ul>

